

磁石すうじ盤 100

酒井伸雄

磁石すうじ盤とは

磁石の入ったコマを盤の上に並べることで、数感覚や処理能力を鍛える教具です。

コマの数は 30、50(あいうえお)、100の三種類とかんじ盤の四種類があり、その中でも 100のすうじ盤が最も汎用性が高くポピュラーです。すうじ盤は数を覚えたての幼児から大人、高齢者まで幅広い年齢層の方に活用していただくことができます。



大きな効果

すうじ盤は公文式の補助教具として開発されたもので、子どもたちが教室でプリントを学習し終えた後などに学習します。

けれど実際の教室ではプリント学習を定着させるだけで、すうじ盤指導にまで手が回らないのが実情です。

もう三十年以上前ですが、自分が公文の指導者として教室を運営していた時、たまたま手元に小さなカード式の記録帳があったので、それを磁石すうじ盤記録帳として活用したところ、多くの子どもたちが毎回喜んですうじ盤と取り組むようになり、取り組む子とそうでない子に学習進度にとっても大きな差ができ、そこですうじ盤の大きな効果を知りました。

多彩な学び方

すうじ盤は数の並びを覚えるだけの教具ではありません。

すうじの書かれていない盤の裏面は大人でも難しく、そこに素早くコマを置くトレーニングは数感覚を鍛えるための最適な方法です。

また幼児にはコマの数を 50 まで、30 までというように減らすことで楽しく数を学んでもらうことができます。

『ちよつどの学習』、学習者にとって最も適切な難易度の学習方法、頻度で与えることが指導の大切なポイントです。

すべてが学びトレーニング

始める前にコマをどこにどのぐらいの高さで並べるか、コマを落とした時はどのタイミングで拾い上げるのか、ストップウォッチの置く位置は、…すべての作業、動作が処理能力を高めるための学びです。

継続は力なり

すうじ盤のメリットはシンプルなこと、けれどそれは単調で飽きやすいということでもあり、いかに学習者の意欲を高め、継続させるかということがとても大切です。

成長を知ることは喜びであり、すうじ盤タイムを計り記録することは大原則です。

学びの環境づくり

『子どもは親の後姿を見て育つ』、家ではいつもテレビがつけっぱなし、本が一冊もなくてあるのはマンガだけ、こういった家庭環境では子どもの学ぶ姿勢は身に付きません。

まずは親御さんが学ぶ姿勢を見せ、学ぶ喜び、楽しさを伝えること、これが子どもへの最大の教育です。

まずは親御さんが楽しくすうじ盤をする姿を見せてあげてください。

親御さん自身の能力開発にもなり一石二鳥です。

さらなる成果を目指して

数の量的概念、質的概念

すうじ盤で鍛えられるのは数の量的概念です。

ここに数の性質を学ぶ質的概念が加われば、数感覚はより研ぎ澄まされたものとなります。

質的概念を最も端的に表すのが数の乗数を分解していく素因数分解です。

これは単語カードの両面に(12、 $2 \times 2 \times 3$)、(50、 $2 \times 5 \times 5$)のように書き、このカードの枚数を徐々に増やしなが、それらを瞬時に答えられるまで繰り返し学習します。

質的概念は、数学が高度なものになるにつれより大切になっていきます。

数学力と国語力

数の量的概念と質的概念が「二つ一つ」であるように、その数学力と国語力もまた「二つ一つ」の関係です。

数学力が処理能力、頭の回転の速さを司る「能力の高さ」であるのに対し、国語力は学習姿勢、学習能力、集中力などと深く関係する「能力の幅の広さ」に相当します。

国語力はすべての物事を学んでいくベースとなるもので、それは読書によって培われる部分が大きく、幼い頃から読書習慣を身に着けることは生涯の宝です。

その読書習慣を身に付けるためにも、読み聞かせとともに親御さん自身の読書習慣、「学びの環境づくり」が大切です。

ちようどの学習で学ぶ喜びを知ること、成長する手ごたえを感じること、すうじ盤はそれをストレートに感じ取らせてくれるツールです。



小さなザルを用意し、コマをよくかき混ぜてから取り組んでください。

amazon

